

令和元年度第2回上越市地域包括支援センター運営協議会 次第

日時：令和2年2月13日(木)

午後7時から8時30分

会場：福祉交流プラザ第1会議室

1 開会

2 あいさつ

3 議題

令和元年度地域包括支援センターの業務

① 令和元年度地域包括支援センターの活動状況…資料1

② 地域包括支援センターの活動に関するアンケート調査の報告…資料2-1、2-2

令和2年度地域包括支援センターの重点業務

① 介護支援専門員への支援…資料3

② 個別地域ケア会議について…資料4

③ 地域ケア会議について…資料4

④ 上越市版地域包括ケアシステムの構築…資料5～7

上越市地域包括支援センター運営方針の改定…資料8

4 報告

令和元年度すこやかに老いるための市民啓発講座実績報告…資料9

5 その他

6 閉会

上越市地域包括支援センター運営協議会委員名簿

任期：H30.8.1～R3.7.31（3年間）

（区分別・敬称略）

No.	区 分	氏 名	推薦依頼団体・所属等
1	(1)介護サービス又は 介護予防サービスに 関係する事業所又は 団体の代表	たけだ ようこ 竹田 陽子	上越地域居宅介護支援事業推進協議会
2		はた さとみ 秦 里美	上越地域居宅介護支援事業推進協議会
3		うえき あきひろ 植木 信宏	上越市介護サービス事業者協議会
4	(2)介護サービス又は 介護予防サービスを 利用している人	たなか みき 田中 美紀	認知症の人と家族の会新潟県支部
5	(3)介護保険以外の福 祉サービス関係者	たけうち あきみ 竹内 明美	上越市ボランティア連絡協議会
6		ば ぼ たかのぶ 馬場 隆信	上越市民生委員児童委員協議会連合会
7		さとう たかのり 佐藤 貴規	上越市社会福祉協議会
8	(4)権利擁護、相談事 業等を担う関係機関	くわばら まさし 桑原 正史	新潟県社会福祉士会 権利擁護センターぱあとなあ新潟
9	(5)学識経験者	あげいし よしお 揚石 義夫	上越医師会
10		あおやま りゅういち 青山 隆一	上越歯科医師会
11		おしやま たかみつ 押山 貴光	上越薬剤師会
12		かとう ともり 加藤 智範	新潟県柔道整復師会
13		かわらばた なおみ 河原畑 尚美	新潟県立看護大学
14	(6)公募に応じた市民	いそべ たづこ 磯部 多津子	公募

令和元年度第2回上越市地域包括支援センター運営協議会

揚石義夫会長	竹内明美副会長
--------	---------

竹田陽子委員
秦里美委員
植木信宏委員
田中美紀委員
馬場隆信委員
佐藤貴規委員

桑原正史委員
青山隆一委員
押山貴光委員
加藤智範委員
河原畑尚美委員
磯部多津子委員

事務局

すこやかなくらし 包括支援センター 上席社会福祉士長 高宮 輝行	すこやかなくらし 包括支援センター 副所長 柳澤 明美	健康福祉部 部長 大山 仁	すこやかなくらし 包括支援センター 次長 南雲 一弘	すこやかなくらし 包括支援センター 保健師長 佐藤 麻由子	すこやかなくらし 包括支援センター 主任 坪井 裕章
高齢者支援課 作業療法士長 廣瀬 志保	高齢者支援課 介護指導係長 小松 浩之	福祉課 副課長 大瀧 早苗	福祉課 副課長 福田 明	すこやかなくらし 包括支援センター 主任 江口 直美	すこやかなくらし 包括支援センター 社会福祉士 岩井 美晴

傍聴・報道席

令和元年度地域包括支援センターの業務

①令和元年度地域包括支援センターの活動状況

ア 令和元年度の地域包括支援センターの重点業務

【上越市認知症施策総合戦略(上越市版オレンジプラン)に基づく認知症施策の推進】

市民が認知症を正しく理解し、全ての認知症の人が安全・安心な生活を送ることができる状態とするため、認知症の予防や早期発見の重要性など、認知症に関する正しい理解の普及啓発に努めるとともに、認知症に関する知識や対応能力を高め、地域で気軽に認知症の相談ができる「認知症なんでも相談室」の役割を担う。

【上越市版地域包括ケアシステムの構築】

令和2年度から、地域包括支援センターの業務に障害のある人やひきこもり、生活困窮者の相談機能を付加し、地域における相談機能を強化する。

イ 業務内容

(ア) 総合相談支援業務

地域の高齢者の相談業務、実態把握、福祉サービスの調整等

(イ) 権利擁護業務

虐待の防止・早期発見、成年後見制度の利用支援等

(ウ) 地域包括ケアシステム構築のための業務

地域ケア会議を通じて社会的資源が有機的に連携することができる環境を整備すること。

(エ) 介護支援専門員への支援業務

支援困難事例に関する介護支援専門員への助言及び日常的な指導活動等

(オ) 介護予防ケアマネジメント

チェックリスト対象者、要支援1・2認定者に対して、介護予防及び日常生活支援を包括的、効果的に行う。

ウ 業務実績

令和元年度実績(令和元年12月末時点)

(単位：件 延べ件数)

区 分		相談等件数
(ア) 総合相談支援業務	介護保険	19,633
	介護方法や介護の悩み	3,657
	医療	5,162
	高齢者や介護者の健康	9,381
	保健・福祉サービス	4,665
	その他	754
	実態把握	6,371
(イ) 権利擁護関係		976
(エ) ケアマネジメント支援(介護支援専門員への支援)		1,991
(オ) 介護予防ケアマネジメント	予防給付	13,719
	介護予防ケアマネジメント	9,208
合 計		75,517

(ウ) 地域包括ケアシステム構築のための業務

【地域ケア会議】

- ・令和元年度開催実績(令和元年12月末時点)：32回
- ・「地域における高齢者の見守り」と「健康課題や介護予防」をテーマに取り上げたところが多かった。

例1：「地域での高齢者の見守り支援体制の強化を図る」

- 参加者：29人
- 対象：町内会長等
- 内容
 - ・当市の地域包括ケアシステムの紹介及び上越市版オレンジプランについて説明を行った。
 - ・「自分が認知症になった時に、どんな支援があったら良いと思うか」「(地域で)どんな支援ならできそうか」について意見交換を行った。
- まとめ(参加者の声)
 - ・地域包括支援センターが高齢者や認知症の相談窓口であることを知らなかった(参加者の3分の1)。
 - ・地域全体に認知症の理解を広める活動が必要ではないか。
 - ・認知症当事者の家族に対する支援や、介護体験を共有する場所があると良い。
- 今後について
 - ・民生委員や町内会長の集まりの場に定期的に参加し、地域包括支援センターの周知を行う。
 - ・認知症サポーター養成講座を開催する他、地域住民や警察等の関係機関との連携を強化する。
 - ・認知症の家族が介護体験を話せる場として、家族会を紹介する他、老人会のような身近な地域での集まりの場を有効に活用する。

例2：「重症化予防に取り組むための連携推進について」

- 参加者：46人
- 対象：介護支援専門員、介護保険事業所職員
- 内容
 - ・地域の現状の把握と重症化予防のための専門職のアセスメントの視点を学ぶ。
 - ・「上越市の健康課題と重症化予防の必要性について」健康づくり推進課保健師
 - ・「薬の服薬管理指導について～重症化予防の視点から～」薬剤師
 - ・グループワークでは、重症化予防のアセスメントや多職種連携について意見交換を行った。
- 今後について
 - ・医療や重症化予防については、支援者の職種や実務経験などによって知識の差があるため、介護支援専門員への基本的な知識を再確認することの必要性が示唆された。

【個別地域ケア会議】

- ・令和元年度開催実績(令和元年 12 月末時点) : 65 回
- ・対象者の「弱み」に視点を向けるだけでなく、「強み」に着目し伸ばしていく視点を確認する機会とした。
- ・検討事例では、全体的に栄養管理、体重の変化、口腔機能、服薬管理、血圧管理に関するアセスメントに対する意識の薄いケースが見られた。参加者及び地域包括支援センター等の専門職の立場から、疾病との関連や重症化予防に向けたアプローチの視点を伝え、健康管理に関する意識の醸成に努めた。

(エ) 介護支援専門員への支援業務**【地域包括支援センター主催の研修会等】**

- ・令和元年度開催実績(令和元年 12 月末時点) : 23 回
- ・入退院時の連携や、介護支援専門員と医療専門職の連携等をテーマに開催した。

例 1 : 「上越市版地域包括ケアシステムについて・介護支援専門員に求めること」
介護支援専門員のニーズに基づき、自立支援・重症化防止等に資するケアマネジメント実施に向け、多職種が協働する支援体制を強化する機会となった。

例 2 : 「介護支援専門員合同研修会」

介護支援専門員と病院職員(退院調整看護師や医療ソーシャルワーカーなど)が集まり、地域連携連絡票の活用について学んだ。うまくいった活用事例の報告のほか、グループワークを通して、介護支援専門員側と病院側の「知りたいこと」「伝えたいこと」の情報交換を行うことができた。

例 3 : 「介護支援専門員と医療専門職との連携研修会 ～訪問看護編～」

介護支援専門員と訪問看護師が参集し、訪問看護の役割を学び、訪問看護導入時の医師との連携についてグループワークを行った。MC ネットを活用するなど、日頃からの情報共有の大切さを学ぶ機会となった。

エ 地域包括支援センター職員研修会の実施状況

回	開催月日	内 容
1	令和元年 5月24日	・認知症に関する相談対応力向上研修
2	7月26日	・在宅医療・介護連携に向けた取組について ・もしバナゲームについて
3	9月27日	・生活習慣病重症化予防について ・介護予防ケアマネジメントについて
4	10月25日	・障害の理解(発達障害)について
5	11月15日	・障害の理解(身体、知的障害)について
6	12月20日	・障害の理解(精神障害、ひきこもり)について
7	令和2年 1月17日	・障害者の相談支援について
8	2月7日	・生活困窮について

- ・上記内容の他、介護保険制度改正や市の事業の周知等の連絡を実施。
- ・3月にも研修会を実施予定。

オ 地域包括支援センター巡回訪問

- ・2か月ごとに、事務局による巡回訪問を実施(4月、6月、8月、10月、12月に実施済)。2月にも巡回訪問を予定している。
- ・日頃の業務の取組状況や課題について、情報共有を行っている。
- ・「介護予防ケアマネジメントの考え方について、保険者の考えを訊きたい」という意見が聴かれたため、第3回の研修会の内容に反映させた。
- ・「地域ケア会議について、市が考える地域課題を示してほしい」という意見や、「個別地域ケア会議の進め方を見直してほしい」という意見については、次年度からの見直しを検討している。

令和元年度地域包括支援センターの業務

②地域包括支援センターの活動に関するアンケート調査の報告

- ・目的：地域包括支援センターに関する客観的な評価を行い、今後の運営事業の参考とする。
- ・対象：上越市・妙高市内の居宅介護支援事業所(87 事業所)
- ・内容：令和元年度の活動について、各項目 5 段階で回答(5:良い 4:まあ良い 3:ふつう 2:やや悪い 1:悪い)
- ・回収率：50.6%(44 事業所/87 事業所)

【アンケート結果】

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	項目平均
①地域包括支援センターは居宅介護支援事業所の相談に乗ってくれますか	4.0	4.8	3.3	4.5	4.1	3.5	3.8	4.0	4.1	4.1	3.8	4.0
②地域包括支援センターには相談しやすいですか	3.9	5.0	3.4	4.4	4.6	2.6	3.9	4.0	3.9	4.0	4.1	4.0
③地域包括支援センターの助言や対応は、適切かつ迅速ですか。 ※ケアプラン作成の助言や、同行訪問の依頼など	3.8	4.2	3.1	3.9	3.6	3.5	3.8	4.0	4.0	3.6	3.6	3.7
④地域包括支援センターは、居宅介護支援事業所の実践力向上につながる研修会・事例検討会を開催していますか	3.8	4.6	3.4	3.9	4.3	3.8	3.4	3.5	4.0	3.8	3.8	3.8
⑤地域包括支援センターは、業務への理解と協力を得るため、地域に対して広報活動を行っていますか	3.5	4.7	3.1	3.7	4.2	3.7	3.2	3.3	3.0	3.7	3.5	3.6
事業所平均	3.8	4.7	3.3	4.1	4.2	3.4	3.6	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8

【アンケート結果 まとめ】

<p>①地域包括支援センターは居宅介護支援事業所の相談に乗ってくれますか。</p> <p>②地域包括支援センターには相談しやすいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「困難ケースの対応など、いざという時はとても頼りになる」、「事務所の雰囲気は良く全員相談しやすい」という肯定的な意見が多く見られた。 ・「相談に乗ってくれるが威圧的で相談しにくい」等の意見が出た地域包括支援センターもあった。 ・事務所の「雰囲気が暗い」、「あいさつがない」という意見が散見された。
<p>③地域包括支援センターの助言や対応は、適切かつ迅速ですか。</p> <p>※ケアプラン作成の助言や、同行訪問の依頼など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「端的で分かりやすい助言をもらえる」、「困難ケースの会議に気持ち良く出席いただいた」という意見があった一方で、「具体案が示されない」、「物足りない」、「何のために相談したのかわからない」という意見もあった。 ・(助言や対応が)「迅速ではない」、「催促しても返ってこない」という意見があった。 ・同行訪問の依頼に対して、地域包括支援センターによって「断られたことがない」という回答と「断られた」という回答に二分した。
<p>④地域包括支援センターは、居宅介護支援事業所の実践力向上につながる研修会・事例検討会を開催していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域ケア会議や研修会は目的がはっきりしていて業務の向上に役立った」、「テーマが分かりやすく参加しやすい」という意見があった。 ・平均点は3.8だが、他の項目に比べて「5」の数は少なかった。
<p>⑤地域包括支援センターは、業務への理解と協力を得るため、地域に対して広報活動を行っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均点が3.6と最も低く、「5」の数も少なかった。 ・地域包括支援センターごとに評価にばらつきがみられる。

【アンケート調査から見えた課題等】

- ・あいさつや態度、期限遵守など、接遇に関する点は早急に改善を求める必要がある。
- ・「求めた答えをもらえない」という意見が散見されたが、全ての答えを伝えるのではなく、一緒に考えたり、介護支援専門員が自ら気付き考えられるように支援したりすることも必要と思われる。そのためにも、介護支援専門員が困り感を相談しやすい良好な関係作りを求めている。
- ・ケアプランチェックや同行訪問の考え方について、研修会などを通じて地域包括支援センターに伝えていく必要がある。
- ・地域包括支援センターの周知等の広報については、今後も機を見て活動に取り組む必要がある。

令和 2 年度地域包括支援センターの重点業務

①介護支援専門員への支援

介護支援専門員の資質向上につなげる業務の参考とするため、12月に行った地域包括支援センター巡回訪問に先立ち、各地域包括支援センターが感じている介護支援専門員の課題を集約した。今回は、在宅医療と介護の連携に関する課題について、具体的な課題を抽出した。

	在宅医療と介護の連携に関する課題等
高田地区	<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員は、地域連携連絡票の活用が不十分である。 ・地域連携連絡票の作成にあたり病院側が求める情報を把握していない。 ・市や医師会等の医療連携の考えや動きを理解することが必要である。 ・日頃の情報共有において、上越地域の共通ツールである地域連携連絡票を利用し、退院カンファレンスやMCネットを活用して多職種連携ができるとよい。
直江津地区	<ul style="list-style-type: none"> ・医療と介護の横のつながりを形成するため、定期的に意見交換ができる場を設ける必要がある。 ・プラン作成時に地域連携連絡票も作成して多職種で共有できるとよいが、作り方や活用の仕方に差がある。 ・退院前カンファレンスで検討する内容が、サービス利用のことだけになっている。 ・アセスメント力や予後予測を見立てる技術が不足している。 ・MCネットの活用が不十分である。 ・退院前カンファレンスや担当者会議を効果的に行えていない。
13区	<ul style="list-style-type: none"> ・重症化予防のアセスメントの視点が欠けていることが多いので、研修会や日々の支援を通して介護支援専門員の資質向上に努める必要がある。

【令和 2 年度の方針】

- ・市全体の共通課題として、「介護支援専門員からかかりつけ医や関係機関に対する情報提供が不十分な点」、「介護支援専門員と医療機関の連携に際して、双方が求めている情報の認識が不十分なことがある点」、「多職種の情報や意見を取り入れたかかわりが不十分な点」の改善に取り組む必要がある。
- ・地域の実情に即して「かかりつけ医との情報共有」や「多職種連携」をテーマとした介護支援専門員研修会や関係機関との意見交換会を行う。
- ・地域包括支援センターは、介護支援専門員研修会や関係機関との意見交換会をそれぞれ年 1 回以上開催するとともに、市担当課へ計画書及び実施報告書を提出する。

令和 2 年度地域包括支援センターの重点業務

②個別地域ケア会議について

ア 経過と現状

- ・当市では、国が推進する地域包括ケアシステム構築に向けた取組の一環として、個別の事例から介護支援専門員の資質向上や事例の課題などを検討することを目的に、平成 26 年度から開催している。
- ・市主催の会議とし、地域包括支援センター単位で年 6 回ずつ行ってきた。
- ・実施方法は平成 25 年度にケアマネ協議会及び地域包括支援センターで協議し、介護支援専門員専門研修で行う事例研究の内容を踏襲する形とした。
- ・平成 30 年度から、検討事例の対象を「要支援 1・2 の人で、予防給付対象者の事例」としている。

イ 課 題

(ア)事例提供者や参加者のスキルアップにつながりにくい

- ・当市では「助言者」という枠組みを設定していないため、参加者(主に介護支援専門員)からの助言に終始している。
- ・事例提供者が問題点と対して論点の検討を行うため、事例提供者の視点がずれていると、支援方針もずれていく。
- ・医療職者の出席が少ないため、専門的見地からの助言が得られない会がある。また医療職者についても、経験の差がある。

(イ)地域課題の抽出に至っていない

- ・会議の時間内では地域課題の抽出が困難であり、参加者が地域課題を考える機会となっていない。
- ・現状は、個別地域ケア会議に出席した地域包括支援センターの職員が地域課題を抽出し、同センターが主催する地域ケア会議の内容に反映させている。

ウ 市の方針

- ・助言者の枠組みを設け、事例提供者をはじめとした参加者に対して、アセスメントのポイントや支援の助言など、「お土産」を持ち帰ってもらえる会議としたい。
- ・アセスメントや課題の整理を行うプロセスを重視し、専門職の支援の視点や考え方を学ぶ機会とするため、事前協議を充実させる。
- ・個別地域ケア会議の目的を改めて示すと共に、「事例検討を目標にする会議」や「地域課題を考える会議」など、その都度目指すものを明確にして会議を進行する。
- ・個別地域ケア会議で検討した事例について、その後確実に必要な支援につながるように事例提供者への伴走支援を行う。

③地域ケア会議について

上越市版地域包括ケアシステムの構築に向けて、年 3 回以上実施する地域ケア会議のうち、1 回は障害福祉に関する内容を含むものにする。

【 実施内容 】

回	内 容	講 師
1	「上越市の高齢者の医療や介護の実態について」 「地域の高齢者の総合相談窓口の紹介」	市職員 地域包括支援センター職員
2	「上越市認知症施策総合戦略(上越市版オレンジプラン)」 「認知症の正しい理解と予防」	市職員 認知症疾患医療センター職員
3	「こころの健康」	市職員(健康づくり推進課、13区保健師)
4	「住み慣れた地域で暮らし続けるために、今、できること」 「今後の人生、もしもの時について考える」	市職員 地域包括支援センター職員

【 実 績 】

		第1回	参加者数	第2回	参加者数	第3回	参加者数	第4回	参加者数
安塚区	安塚コミュニティプラザ	7月31日(水)午前	5	8月7日(水)午前	22	8月21日(水)午前	15	9月4日(水)午前	11
浦川原区	浦川原コミュニティプラザ	6月27日(木)午前	1	7月11日(木)午前	3	7月25日(木)午前	2	8月8日(木)午前	2
大島区	大島コミュニティプラザ	7月12日(金)午前	3	7月26日(金)午前	16	8月9日(金)午前	15	8月23日(金)午前	10
牧区	牧コミュニティプラザ	7月4日(木)午前	8	7月18日(木)午前	11	8月1日(木)午前	5	8月8日(木)午前	5
中郷区	中郷コミュニティプラザ	7月19日(金)午前	14	8月2日(金)午前	15	8月23日(金)午前	12	9月6日(金)午前	13
板倉区	板倉コミュニティプラザ	8月5日(月)午後	3	8月19日(月)午後	2	9月2日(月)午後	4	9月9日(月)午後	5
清里区	清里コミュニティプラザ	7月30日(火)午前	18	8月6日(火)午前	14	8月20日(火)午前	12	8月27日(火)午前	11
柿崎区	柿崎コミュニティプラザ	6月20日(木)午前	2	7月4日(木)午前	3	7月18日(木)午前	3	8月1日(木)午前	2
大潟区	大潟コミュニティプラザ	5月28日(火)午後	7	6月4日(火)午後	9	6月18日(火)午後	5	7月2日(火)午後	9
吉川区	吉川コミュニティプラザ	10月17日(木)午前	1	10月24日(木)午前	3	11月7日(木)午前	18	11月21日(木)午前	37
頸城区	希望館	5月31日(金)午前	4	6月14日(金)午前	4	6月28日(金)午前	4	7月12日(金)午前	10
三和区	三和コミュニティプラザ	6月25日(火)午後	12	7月9日(火)午後	14	7月23日(火)午後	10	7月30日(火)午後	14
名立区	名立コミュニティプラザ	7月10日(水)午後	4	7月24日(水)午後	15	8月7日(水)午後	16	8月21日(水)午後	10
高田区	オーレンプラザ	6月8日(土)午前	24	6月29日(土)午前	32	7月6日(土)午前	23	7月20日(土)午前	25
新道区	新道地区公民館	9月2日(月)午前	4	9月9日(月)午前	4	9月30日(月)午前	5	10月7日(月)午前	4
金谷区	福祉交流プラザ	10月3日(木)午後	7	10月17日(木)午後	7	10月31日(木)午後	8	11月14日(木)午後	7
春日区	春日謙信交流館	9月6日(金)午前	9	9月20日(金)午前	9	10月4日(金)午前	9	10月11日(金)午前	7
諏訪区	諏訪地区公民館	8月28日(水)午前	4	9月11日(水)午前	3	9月25日(水)午前	4	10月9日(水)午前	5
津有区	津有地区公民館	10月4日(金)午前	3	10月18日(金)午前	3	11月1日(金)午前	3	11月15日(金)午前	3
三郷区	三郷地区公民館	7月22日(月)午前	12	8月5日(月)午前	9	8月19日(月)午前	9	8月26日(月)午前	10
和田区	和田公民館	10月23日(水)午後	2	11月6日(水)午後	3	11月20日(水)午後	5	11月27日(水)午後	2
高士区	高士地区公民館	9月3日(火)午前	20	9月17日(火)午前	6	10月1日(火)午前	0	10月15日(火)午前	0
直江津区	直江津学びの交流館	5月20日(月)午後	7	6月3日(月)午後	6	6月17日(月)午後	9	6月24日(月)午後	4
有田区	教育プラザ	10月12日(土)午前	4	10月26日(土)午前	7	11月9日(土)午前	5	11月16日(土)午前	6
八千浦区	八千浦交流館はまぐみ	10月15日(火)午後	2	10月29日(火)午後	2	11月19日(火)午後	1	11月26日(火)午後	0
保倉区	保倉地区公民館	6月7日(金)午後	3	6月21日(金)午後	3	6月28日(金)午後	3	7月5日(金)午後	3
北諏訪区	北諏訪地区公民館	8月30日(金)午後	0	9月13日(金)午後	3	9月27日(金)午後	2	10月11日(金)午後	0
谷浜・桑取区	谷浜・桑取地区公民館	11月11日(月)午後	0	11月18日(月)午後	0	11月25日(月)午後	1	12月2日(月)午後	0
計			183		228		208		215
開催回数			28		28		28		28

年間実施回数	112回
--------	------

※4回×28地域自治区で予定通り全回数実施した

	令和元年度	平成30年度(参考)
目標参加者数	896人	896人
参加者数	834人	721人
達成率	93.1%	80.5%

※1回当たりの参加者平均7.4人

	割合
20代	1.5%
30代	0.8%
40代	2.9%
50代	4.6%
60代	24.3%
70代	38.2%
80代	23.6%
90代	4.1%

(裏面もあります)

【 成 果 】

- ・参加者から、「なんでも相談できる窓口が分かって良かった」という声が多く聴かれた。
- ・講座の中で、参加者から「知人が消費者被害に遭っているかもしれない」という話があり、その後地域包括支援センターの相談につながった。
- ・参加者が「出向く場所」「集いの場」に興味を持ち、サロンの利用につながった。
- ・町内会から「交通移動手段がない高齢者のために、最寄りの会館で同じ内容で開催してほしい」という依頼があり、町内会対象に講座を開催した。
- ・「もしバナゲームをして、人それぞれ価値観が違うということが分かった」「一人ではなかなか考えないことも、講座を通して考えることが出来た」等の声が聴かれた。講座に参加することで自分や周りの思いを知り、これからの自分の人生について考えるきっかけ作りとなった。

【次年度への課題】

○周知について

- ・講座の周知が十分でなく、参加者が0人の時もあり、目標数に到達しなかった。参加者より有線放送等を活用してはどうかと意見があったため、次年度検討することとする。

○内容について

- ・参加者が、介護や医療を受けながら在宅で過ごすイメージを描く経験がある人が少なかったため、継続して啓発していく必要がある。
- ・4回目に「今後の人生、もしもの時について考える」というテーマを掲げ、在宅医療や今後の人生について考える内容にしたが、もしバナゲームについては参加者によって理解が難しい地域があった。また、参加者がどこまで自分事として捉えることが出来たかが不明であった。テーマは継続しつつも、内容や伝え方を再考する必要がある。

【次年度の方向性】

○周知・開催時期について

※4回×28地域自治区で開催する

- ・開催時期について、地区担当保健師から地域の実情を聞きながら把握し、地区の要望に応じた時期に開催し、参加人数増につなげる。
- ・地域支え合い事業受託者の生活支援コーディネーターに開催日程を伝え、すこやかサロン参加者に対して講座の周知をしてもらう。

○内容について

※4回×28地域自治区で開催する

回	内 容	講 師
1	<ul style="list-style-type: none"> ・上越市の高齢者の医療や介護の実態について ・地域とつながることの大切さについて（地域包括ケアシステムについて） ・「地域包括ケアシステム」から、自分でできることを考える、話し合う 	市職員（すこやかなくらし包括支援センター） 地域包括支援センター職員
2	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の正しい理解と予防について：認知症サポーター養成講座を兼ねる ・認知症の方への接し方、対応方法について 	市職員（すこやかなくらし包括支援センター） 認知症疾患医療センター職員
3	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のこころの健康について ・人とつながることの大切さを考える 	市職員（健康づくり推進課）
4	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の在宅医療・介護サービスについて学ぶ ・自分の人生を振り返り、今まで大切にしてきたことや今後の人生設計をする上で、周りに伝えておきたいこと、どのように過ごしていきたいかを考える。（もしバナカードも今後の人生を考えるツールとして活用） 	市職員（すこやかなくらし包括支援センター） 地域包括支援センター職員